

医療モール

国内最大級オープン

武蔵浦和駅周辺、12診療科

内科や外科などの十二の診療科をそろえた「武蔵浦和メディカルセンター」が三日、JR武蔵浦和駅近くに開設された。敷地面積は約五千平方メートルで、十二診療科が入居するモールは全国でも最大級という。駅周辺は高層マンションの建設が進み、若年層を中心に人口が増えている。大型の医療モールの開設で周辺住民の利便性が高まりそうだ。

場所は同駅から徒歩約四分。組合施行の「第八一一再開発事業」で建設した三十一階建てのビルと大型ショッピングセンターや専門店などが入居するミューズシティ内にある。国道17号沿いにあるため周辺以外の住民も取り込みたい考え。

医療モールは、診療科目の異なる複数の診療所と調剤薬局が同居する施設で、店舗が軒を連ねる商業モールになぞらえて名付けられた。勤務医の開業志向の高まりに加え、患者を集めやすい医療モールの開設数は急速に増えている。

医療モールの入居医療機関をとりまとめたのは医療法人新光会（東京・新宿、新保光一郎理事長）。ほかに、小児科、神経内科、アレルギー科、胃腸科、眼科、皮膚科、泌尿器科、肛門科、麻酔科、歯科が入居する。